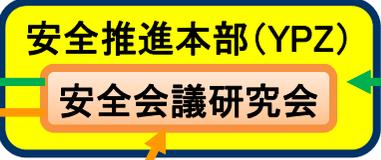
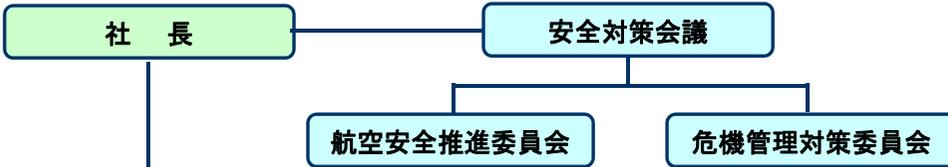


業 種	航空
取組分野	情報伝達及びコミュニケーション
テ ー マ	社内の情報伝達を確実に行うとともに、社内関係者において、社内の施策等に関し、より関心を持ってもらうための取組
取組の狙い	既存の会議体等を通じて、検討されている課題、検討状況、決定事項等は、社内に十分伝達されるように仕組みが構築されているが、これらの内容を客観的に再確認し、あらためて関係者に対して伝達するため、「安全企画会議」が側面からフォローし、多くの社内関係者の把握・関心度を向上させる。
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・従来より、日本航空では、会議体等の仕組みは構築されているが、大組織であるが故に、出席者等が限定され、情報伝達も形式的になりがちで、社員の理解度・関心度が向上しない傾向が一部みられた。 ・また、同じ議題、結論であっても、立場によって考え方、感じ方が異なる場合があり、その差異を解消することが、今後、関係者の共通理解を促進できると社内で認識していた。 ・この状況を踏まえ、安全推進本部を事務局とする「安全企画会議」を設置し、ここで社内の情報伝達内容等を全般的にレビューし、その結果をまとめ、あらためて社内関係者に伝達する取組を平成22年より開始した。 ・「安全企画会議」については以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ①安全推進本部担当者が、各本部およびグループ航空会社の安全関連の会議体に参加し、各部門の安全への取組、不具合事象への対応状況について情報を収集。この際、議事概要だけでなく、どのような役職者から、どのような発言があったか、そのニュアンスや周囲の反応などにも注意を払っている。 ② 安全企画会議に先立ち、安全推進本部内で安全会議研究会を開催し、安全関連の会議体（①項）での議事内容を確認し、「安全企画会議」で議論すべきポイントをピックアップする。 ③上記①、②で収集・確認した情報を基に、担当部署の部長が参加し、毎月1回開催される「安全企画会議」にて議論・検討
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全企画会議」を通じて、社内およびグループ内の他部門の動向についての情報共有が図られた。得られた情報の中には、会議体の雰囲気、発言者の微妙なニュアンスなども含まれており、社内およびグループ内の動きの背景なども把握することが出来るようになった。 ・安全推進本部担当者が、「安全企画会議」への情報提供を目的として、社内およびグループ航空会社の会議体に参加することにより、安全推進本部担当者が社内およびグループ内の動向と安全とを結び付ける感度を高めることにつながったと考えている。
事業者名	日本航空 安全推進本部 安全企画グループ (連絡先：03-5756-3482)

安全企画会議イメージ図

日本航空



各社安全会議にYPZ担当者を派遣し
情報を集約

グループ航空会社の安全会議

- ジャルエクスプレス
総合安全推進委員会

【出席】
YPZ担当者
- ジェイエア
総合安全推進委員会

【出席】
YPZ担当者
- 日本エアコミューター
安全推進委員会

【出席】
YPZ担当者
- 日本トランスオーシャン航空
総合安全推進委員会

【出席】
YPZ担当者
- 琉球エアコミューター
安全推進委員会

【出席】
YPZ担当者

集約した情報は、会議
の場で安全担当各部
の部長にフィードバック

集約した情報は、①次月以降の各社安全推
進委員会、および②航空安全推進委員会(第
二部)で各社へフィードバック

各部安全会議にYPZ担当者を派遣し
情報を集約



各部の安全会議

